

令和5年度 授業改善推進プラン 理科

	観点別		
学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
3年	- 理科の用語や基本的な事項についてまとめ、知識の定着を図る。 - 自分の生活と結び付けて考えさせるようにする。 - 観察は、視点をもって継続的に行う。以前との変化を見つけながら観察させるようにする。 - 実験道具の正しい扱い方を理解し慣れさせる。	- 問題解決学習を基本とし、観察や実験から予想したり考えたりする場を設定する。 - 自然の事物・現象の差異点や共通点に着目させたり比較させたりする。 - 実験・観察の結果を視覚的にわかりやすく表示する。 - タブレットPC・スクールタクトを活用して写真を撮り、観察したものを継続的に比較できるようにし、観察カードに記録できるようにする。	- 児童の疑問や予想を大切にし、主体的に学習が進められるよう計画する。 - 飼育・栽培の学習活動や実験などの体験活動を多く取り入れ、意欲や関心を高める。 - タブレットPC「まなびポケット」「スクールタクト」を有効活用し、植物の観察時、実際に写真を撮ってから教室で観察カードに詳しく記述するなどして、観察事項を適切に比較できるようにする。
4年	- 基礎的な知識をしっかりと身に付けることができるよう、単元の終わりのまとめを丁寧に行い、知識の定着を図る。 - 自分の生活と関連付けて、自然現象の知識を深める。 - 栽培活動を継続し、その変化の比較観察を行う。観察の視点・観点を明示することで観察力を養う。 - 実験で使用する用具・器具、薬品の名前などの用語を覚えられるように繰り返し用語の名前を確認する。 - 実験の手順を考えさせてから実験する。正しい実験器具の扱い方を繰り返し指導し、慣れさせる。	- 既習内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を考える場を設定する。 - 観察や実験活動を通した問題解決型学習によって、科学的な見方や考え方を育てる。変化と原因を関連づけて考えるようにさせる。 「課題-予想-観察-実験-結果-考察-まとめ」という授業の流れで指導し、思考力を高める。 - 初期段階では考察の書き方を文型を与えることで表現の仕方を身に付けさせる。 - 実験、観察の結果を折れ線グラフ・棒グラフ、表、回路図などで表す。また、起こった現象をモデル図に表す。	- 児童の疑問や予想を大切にし、主体的に学習が進められるよう計画する。 - 学習課題を明確にすることで、問題解決の意欲や関心を高める。 - 実験や観察の機会を増やしたり、ICTを活用したりして科学に関心をもたせるようにする。 - 体験を通しての児童の気づきを大切にします。
5年	- 実験や観察後にまとめの時間を確保し、自分の言葉できちんとノートにまとめる。 - 実験や観察の予想場面では児童相互の意見交換をし、多様な考えから取捨選択する力を付ける。 - 自分の生活と関連付けて考え、自然事象の知識を深める。 - 顕微鏡などの実験器具の使い方を確実に指導するとともに、授業で活用する機会を多くもたせ、使い方に習熟させる。 - 用語の確認をする時間を確保し知識の定着をはかる。	- 観察や実験活動を通した問題解決学習によって、科学的な見方や考え方を育てる。 - 実験を行う際に、「調べる条件」「そろえる条件」を明確にして計画を立て、条件に目を付けて実験を行うことができるようにさせる。 - 実験・観察の結果を折れ線グラフ・棒グラフ・表などで表し、そこから分かったことを文章で表現させる。 - 実験結果から考察を加える展開を行い「調べる条件」「そろえる条件」を意識させる授業構成にして、科学的な見方・考え方を育む。	- 授業の導入や問題提示の仕方を工夫し、学習内容に興味・関心をもたせるようにする。 - 実験や観察などの体験やICTを活用して学ぶ機会を増やし、科学に関心をもたせるようにする。 - 実験・観察した内容が日常生活にも生かされている場面を紹介したり、調べさせたりすることで主体的に取り組む態度を育てる。
6年	- 観察や実験の後に、話し合ったり確かめたりする時間を確保し、確実に知識・理解の定着を図る。 - ワークシートやプリント、タブレットを活用し、基礎的・基本的な学習内容の復習を行い、理解の定着を図る。 - 気体検知管や各種の薬品など、実験で出てくる器具等については、教科書を活用し、正しい扱い方を確認する。 - 実験の結果だけでなく、過程に注目させ、記録をとるようにする。	- 自然の事物・現象の変化や働きについて、実験や観察・調査を通して、その要因や規則性・関係を推論する能力を育てる。 - ノートやタブレットで実験・観察の結果を折れ線グラフ・棒グラフ・表・モデル図などで表し、科学的な思考力・表現力を育てていく。	- 児童が自然事象に対して関心をもって学習を進めていけるよう、単元の導入の工夫をする。 - ICTや映像資料などを積極的に活用し、児童の興味を喚起する。 - 子どもの「なぜ？」を大切にしながら、単元の流れやゴールを設定する。